

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 15人 |
| ② 算数 | 15人 |
| ③ 理科 | 15人 |

5 留意事項

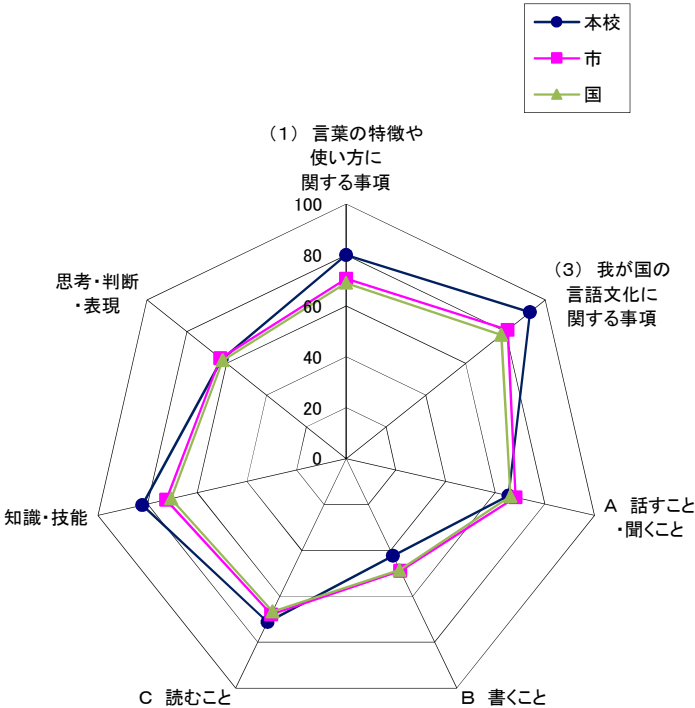
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.0	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	92.3	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.4	68.2	66.2
	B 書くこと	42.3	48.9	48.5
	C 読むこと	71.2	67.9	66.6
観点	知識・技能	82.1	72.5	70.5
	思考・判断・表現	62.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は80.0%で市の平均を上回った。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」設問において、正答率が90%を超えている解答もあり、市の平均を大きく上回っていた。 ●「言葉には相手とのつながりをつくる働きあることを捉える」設問において、正答率が県・全国平均と同程度であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・作文指導において、既習の漢字は文中で正しく使うことを徹底し、繰り返し指導していく。 ・図書室を利用する際にことわざや故事成語に関する本などを紹介して慣れ親しむとともに、+1を活用して例文づくりを行い、理解を深めていく。 ・AIDリルを活用し個人の課題に応じた学習を今後も継続して行う。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は92.3%で市の平均を大きく上回った。 ○「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」設問において、正答率が市の平均を大きく上回り、漢字を正しく理解することができていた。	・既習の漢字を文章の中で使うことを意識させた指導を継続するとともに、小テストなどで学習内容の定着を確認する機会を設けていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は65.4%で、市の平均をやや下回った。 ○「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」設問において、正答率が市の平均を大きく上回った。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」設問において、正答率が市の平均を下回った。今後自分の考えをまとめていくことが課題である。	・他教科との関連を図りながら、話し合い活動の充実を図り、相手意識・目的意識を明確にしてお互いの考えを伝え合う場の設定を行っていく。 ・総合的な学習の時間などに関連させ、ボランティアの先生へのインタビューで、話し手の意図を捉えながら話を聞いたり、質問したりできるよう指導の充実を図っていく。 ・ICTを活用しスライドを使用したプレゼンテーションを授業の中で取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は42.3%で、市の平均を下回った。 ●「文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える」設問において、市の平均をやや下回った。 ●「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」設問において、正答率が市の平均を下回った。記述式の設問において、自分の考えを文章化していくことが課題である。	・各教科で自分の考えを書く活動を充実させてきているが、今後も他教科他領域とも関連付けながらグラフや表などを用いて言語活動を行わせたり、情報を分析させ、それをもとに記述させるなどの指導を充実させていく。 ・書くことと読むことは表裏一体であるため、読書活動へ意欲的に取り組ませると共に、書かれている内容を各自まとめていく活動を実践していく。普段の学習においても、自分の考えをノートに書いてから、お互いの意見交流をしていくことで、自分の考えをまとめていく機会を増やしていく。
C 読むこと	平均正答率は71.2%で、市の平均をやや上回った。 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉えていく設問や表現の効果を考える設問において、市の平均を大きく上回った。 ●登場人物の行動や気持などについて、叙述を基に捉える設問では、市の平均を下回った。	・今後も読書活動を奨励すると共に読む本のジャンルを広げていくように働きかけ、登場人物の心情を読み取ったり情景描写を味わったりする機会を設けることで、叙述を基に理解を深めていけるよう支援していく。 ・読み物資料を意図的に提供して、様々な表現の工夫に触れさせる機会を作る。 ・言語活動を通して着目点を明確にし、情報の読み取りを行わせる。

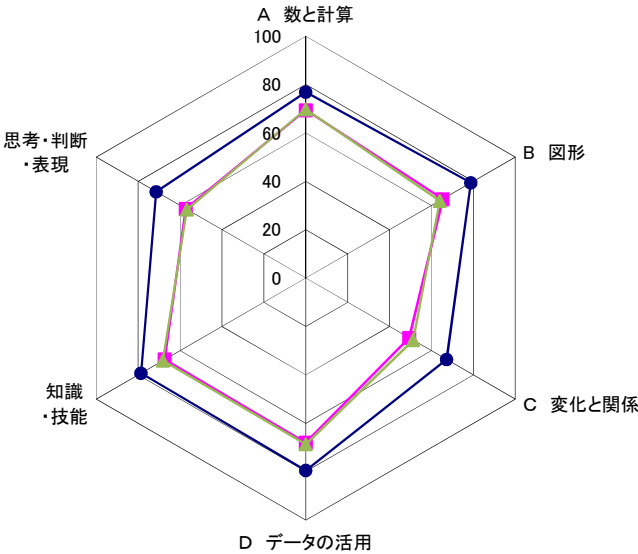
宇都宮市立城山西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】



分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	76.9	69.5	69.8
	B 図形	78.8	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	67.3	49.3	51.3
	D データの活用	79.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	78.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	71.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

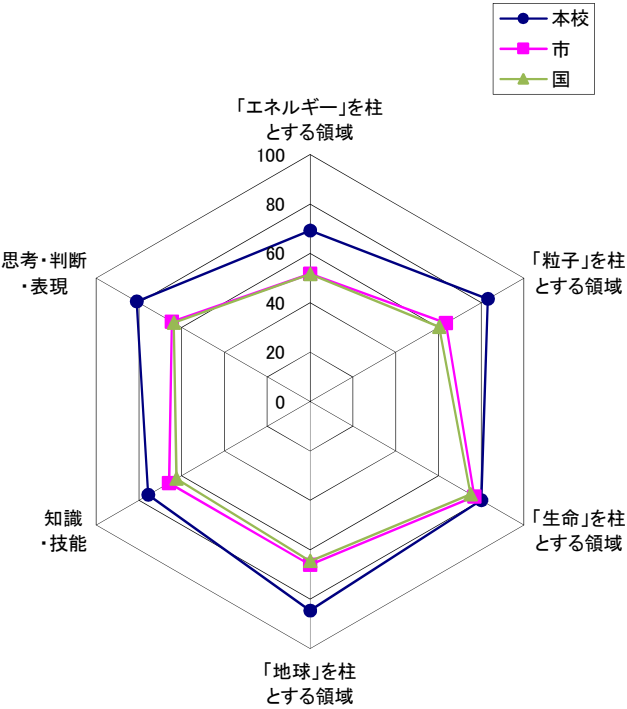
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は76.9%で市平均を大きく上回った。 ○「被除数に空位のある整数の乗法の計算をする」設問において、正答率が100%だった。 ●「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する」設問において、正答率が市平均をやや下回った。場面設定を想像理解し、建設的に考え、式にすることが困難だと思われる。	・授業の中で、問題場面を具体的に把握し、解き方や問題解決の見通しなどの自分の考えを文章に起こすなどの練習をしたり、数値の変換に注意して立式したりすることを丁寧に確認していくようにする。
B 図形	平均正答率は78.8%で、市平均を大きく上回った。 ○「示されたプログラムについて、正三角形を書くことができるプログラムに書き直す」設問において、正答率が市平均を非常に大きく上回った。	・図形の学習の際には、それぞれの図形の特徴を捉え、辺や角などの図形を構成する要素に着目し、様々な資料や具体物に触れたり、作図したりする活動をさせていく。 ・プログラミング学習を活用し、様々な図形の特徴をとらえて作図ができるよう指導していく。
C 変化と関係	平均正答率は67.3%で、市平均を大きく上回った。 ○「二つの数の最小公倍数を求める」設問において、市平均を上回った。 ●「示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているか問う」設問において、正答率が市平均をやや下回った。	場面設定を想像理解し、建設的に考え、式にすることが困難だと思われる。授業の中で、場面を想像し、自分の考えを文章に起こすなどの練習をしたり、数値の変換に注意して立式したりすることを丁寧に確認していくようにする。
D データの活用	平均正答率は79.5%で、市平均を大きく上回った。 ○すべての設問において、正答率が市平均を上回った。特に、「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」設問において、正答率が市平均を非常に大きく上回った。	・資料の特徴や傾向を読み取る力が高いことから、今後も様々な資料に触れる機会をもつとともに、そこからどんな情報が得られるかなどを考える場面を設定することで、資料を読み取る力をより高めていけるようにする。 ・「円グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」ことを苦手としている児童が見られることから、資料の特徴や傾向だけを読み取る基礎的な力だけではなく、発展的な問題に取り組ませることで、具体的なデータを基に比較・検討していく中で、必要な情報を得ることができるようにしていく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	69.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	83.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.0	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	84.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	75.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	81.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は69.2%で、市平均を大きく上回った。 ○「実験で得た結果を問題の視点で分析・解釈し、自分の考えを記述する」設問において、正答率が市平均を非常に大きく上回った。 ●「日光は直進することを理解しているか」の設問において、市平均と同程度の正答率ではあったが、正答率が30.8%に留まり、基礎的な内容の定着に課題が見られた。	・光の性質について、正答率が低いことから、実際に同様の実験を行い、体験を伴いながら理解できるようにしていく。 ・観察で得た結果を分析・解釈し、自分の考えを記述することについて、誤答や無回答の児童が見られることから、実験や観察の分析のポイントを示したり、そこから解釈できることなどを共有したりして、実験や観察の仕方を身に付けられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は83.1%で、市平均を大きく上回った。 ○「メスシリンダーの器具名を問う」設問において、正答率が100%で、市平均を非常に大きく上回った。 ●「凍った水溶液で試したいことをもとに、見いだされた問題を記述する」設問において、市平均を大きく上回っているが、正答率は53.8%で、高くはない。多角的な視点で問題をとらえ、さらにそれを記述するという点で正答率が低くとどまったと考えられる。	・メスシリンダーの名称や扱い方など、基礎的知識はしっかり身に付いていると思われる。今後も確認プリントなどを定期的に行い定着が図れるようにする。 ・記述を要する問題では、正答率が高くはないことから、問われていることに対し、解釈できることを見つけ、それに対しての自分の考えをもち文章化することを練習していく機会を多くもつようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、80.0%で、市平均をやや上回った。 ○「資料を基に昆虫の育ち方と食べ物について選ぶ」設問において、正答率が、市平均を非常に大きく上回った。 ●「様々な昆虫の体のつくり」についての設問において、正答率が、市平均を下回った。	・昆虫の体のつくりの特徴は何か、視点をどこにあればよいかを考えさせて表にまとめるなど、視覚的に表し、知識理解につながるようにする。 ・観察記録からの考察の仕方について、ポイントをおさえ明示していくことで、分析・解釈の仕方が身に付くようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、84.6%で、市平均を大きく上回った。 ○「グラフの読み取り」の設問において、正答率が市の平均を非常に大きく上回った。	・観察記録の読み取りなどは正しく読み取ることができている。だが、読み取った結果の分析・解釈の仕方がまだ不十分などところもあるので、考察の仕方について、ポイントをおさえ明示していくことで、分析・解釈の仕方が身に付くようにしていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。」の設問において、肯定割合が73.4%で、県平均を大きく上回った。目標をしっかりと掲げ、それに向かって取り組む姿勢が培われてきたと思われる。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の設問において、肯定割合が93.8%で、県平均を大きく上回った。学年が上がり、学習に対する意欲の向上の表れと思われる。今後も自主学習への取り組み方を学級内で紹介するなどし、互いに参考にしていきながら取り組みが深まるように支援していく。

○「学級の友達と話し合う活動」の設問において、肯定割合が86.7%で、県平均を上回った。引き続き、話す・聞く姿勢の指導にあたりながら、子どもが主体的に取り組んでいけるようにする。

○「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。」の設問において、肯定割合が60%で、県平均を非常に大きく上回った。世の中の科学技術の発展に関心をもつ児童が多いと思われることから、身近な事象を授業に取り入れ、より興味関心をもてるよう工夫した授業展開を図る。

●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の設問において肯定割合が40%、「友達と協力するのは楽しいと思いますか。」の設問の肯定割合が46.7%と、県平均を非常に大きく下回った。人の役に立つことに興味をもてず、誰かと協力して何かを成し遂げることに楽しさを見い出せていないと思われる。授業や特別活動、行事等を通して人の役に立つ喜びを味わせたり、誰かと協力することの素晴らしさを感じさせたりしたい。

●「学校で自分の考えをまとめ、発表する場面、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。」の設問において、肯定割合が13.7%で、県平均を下回った。日頃から様々な教科、単元において、PC・タブレットなどのICT機器を使用したプレゼンテーションの場等を多く設定していく。

●「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。」の設問において、肯定割合が53.3%で、大きく下回った。授業であきらめず考える姿が見られる反面、生活上と結び付けて生かそうとする機会があまりないと思われる。生活のどの場面で生かせるか、身近な問題を取り上げた授業展開の工夫をし、生活に生かしていけるようにする。

●「算数の解答時間は十分でしたか。」の設問において、肯定割合が66.7%で、大きく下回った。文章問題を読み解く力や、自分の考えをまとめて文章化する力が劣っているように思われる。補助問題としてプリント学習等を多く取り入れ、力を養っていきえるように支援していく。

宇都宮市立城山西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習指導の工夫改善	・授業における効果的な導入や発問の工夫 ・児童に学習課題をはっきり理解させ、見通しをもって課題にじっくり取り組ませる授業展開の工夫。 ・授業終末または単元末の振り返り活動において、学んだことや考えたことを的確に表現する機会の充実 ・既習事項や他教科の学習・実生活との関わりを意識した学習の実施	・基本的な生活習慣や学習習慣がきちんと身に付いていると考えられる。 ・学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習に積極的につなげている児童が少数にとどまった。 ・各教科の学習が将来や実生活に役立つと考えている児童の割合がやや低かった。
学びに向かう力の育成・個のよさを伸ばす学習指導の展開	・ハンドサインを活用した授業の展開 ・教師のコーディネート力の向上 ・朝の学習における個別支援の充実 ・一人一台端末を活用した学習の個別最適化 ・特別活動と各教科等を関連させたキャリア教育の推進	・自分で決めたことは最後までやり通すことができているようではあるが、難しいことでも失敗を恐れず挑戦することはあまりできていないようであった。 ・自分にはよいところがあると思う児童が約8割にとどまっていた。また、先生は自分のよいところを認めてくれると答えている児童は9割であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数、理科のどの教科においても、基礎的な問題の定着が不十分な児童がわずかに見られた。 ・学力の二極化が認められた。 ・条件を考慮しながら自分の考えを文章化していくことが苦手の児童が多いようだった。	・基礎的な学習内容の定着を再度徹底するとともに、朝の学習や宿題を活用して「書くこと」の指導をしていく。 ・教科間および、単元どうしのつながりを指導者も学習者も十分意識して学習に取り組む。	・算数の授業開始時に、短時間で取り組める計算問題を毎回行い、基礎的な計算力の徹底を図っていく。 ・国語の授業開始時には、各学級で工夫して漢字の定着を図るための学習が進められているので、担任間で情報共有を図り実践を広げていく。